

# Partner

[パートナー]

Vol.19

2025.AUG

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —



## 脳血管内治療の進化と 更なる低侵襲化

— 新規デバイス W-EB も登場 —

・脳神経外科・  
寺門 利継

KOYAMA MEMORIAL HOSPITAL

### 紹介患者さんの受診方法について

#### 紹介状持参患者さん 予約取得フロー

各科緊急連絡先

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しており、他の医療機関からの紹介患者さんの対応、患者さんのお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。当院へご紹介の際は、患者さんに紹介状をご持参いただいた際の受診を推奨しておりますので、ご協力をお願いいたします。診療の経過や状況等の詳細は14日以内に担当医よりご報告をいたします。別途の追加の詳細をご希望される場合は、個別にご連絡ください。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、  
地域医療連携室にて事前に予約をお取りします。  
「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を  
事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》  
TEL. **直通① 080-3249-8519** **直通② 080-3249-8529**  
FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

1 医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～17:00
	土曜日	9:00～12:00

2 受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。  
FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)  
※FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。

3 ・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。  
・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。(できる限り15分以内にご連絡します)  
※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。

4 予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、  
11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、  
ご案内をお願いいたします。

患者さん自身で  
予約取得

紹介状原本をお渡しいただき、  
紹介状予約患者さん専用ダイヤルのご案内をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～17:00
	土曜日	9:00～12:00

TEL.0299-88-2233 (紹介状予約患者さん専用ダイヤル)

緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。

- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
  - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
  - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土/8:00～20:00 迄) 日・祝を除く
  - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)※
- ※月～金/9:00～16:00、土/9:00～11:00 日・祝を除く





ピックアップドクター

# Pick up Dr.



各診療科の医師が専門分野を伝える

・脳神経外科・

## 寺門 利継

日本脳神経外科学会 専門医  
日本脳神経血管内治療学会 専門医・指導医  
日本脳卒中学会認定脳卒中専門医・指導医  
日本医師会認定健康スポーツ医  
日本脳卒中の外科学会 技術認定医  
臨床研修指導医



### 脳血管内治療の進化と更なる低侵襲化 — 新規デバイスW・E・Bも登場 —

2023年6月に本誌で紹介した脳血管内治療ですが、わずか2年の間でさらに進化を遂げました。前回の記載を流用すると、「脳血管内治療とは全身麻酔もしくは局所麻酔で行います。足の付け根の血管から（場合によっては手の血管から）カテーテルと言われる管を挿入して、詰まった血栓を除去したり、細くなった血管にス TENT を挿入したり、動脈瘤にコイルと言われる柔らかい金属を挿入したりします。治療後は、カテーテルを抜いた際にできた血管の穴を専用の器具で塞いで終了となります」と紹介しましたが、この文章もいくつか変更点（進化した点）があります。

●カテーテル挿入位置を  
手の血管に変更することにより  
術後の安静が不要に

進化した点の一つ目は、手の血管（かつ遠位橈骨動脈：図1）からカテーテルを挿入する方法に当院では変更

しました。そもそも循環器内科の領域では手の血管からの治療が主流ですが、脳血管の領域では足の付け根の血管から治療を行うことが非常に多いのです。理由としては、①治療に使うデバイスが太いため手の血管からでは難しいことが多い、②治療する血管までの距離が心臓より遠く屈曲蛇行している、③手の血管からの治療に慣れていない、ことが挙げられます。これらの問題点がデバイスの進化、治療技術の向上により解決されるようになり、当院では2025年現在、8割程度の症例は手の血管から治療するようになりました。手の血管から治療をするメリットとしては、術後の安静が必要ないことが挙げられます。足の血管の場合は治療後4〜6時間ベッド上で安静が必要ですが、手はバンドで止めるだけなのでそれが必要ありません。また遠位橈骨動脈からの場合は通常の手の血管に比べてさらにバンドでの圧迫時間が少なくなります。これにより

●動脈瘤の再発がない  
フローダイバースtent  
stentが登場

進化した点の二つ目は、脳動脈瘤治療です。脳動脈瘤に対する治療は2通りで、開頭して動脈瘤にクリップをかける方法とカテーテル治療があります。カテーテル治療の基本は、コイルと言われる柔らかい金属を少しずつ動脈瘤内に挿入して、血管の中から動脈瘤への血流をなくすことです。カテーテル治療のメリットは何といっても頭に傷が残らないことですが、カテーテル治療が難しい脳動脈瘤はありますし、開頭術に比べると再発の可能性が少なからずあります。

それに対してまずフローダイバースtentが登場しました。この治療の特徴は、脳動脈瘤の起始している血管に非常に網目の細かいstentを留置するだけで、徐々に脳動脈瘤への血流が減少し半年から1年後には消失するということです（図2）。この治療のメリットは、一度消失した動脈瘤が再発することはないという点です。ただ、全ての動脈瘤に使えるわけではないことが残念です。また術者の制限はありますが、発売から10年経過し全国でも多くの医師が施行できるようになりました。

●全国で約80名の医師しか  
施術できない  
W・E・Bデバイスも使用可能

もう一つはW・E・Bデバイスです。これはコイルの代わりに細かい網目のできた金属製の風船を動脈瘤に留置する治療です（図3）。これは今までは治療が難しいと言われていた口径の広い動脈瘤を治療するのに適している、このデバイスを留置するだけで、動脈瘤の血流が一気に減少し最終的に閉塞するという仕組みです。これは発売から5年経過していますが、術者の制限がまだ厳しく2025年5月現在で使用できる医師は全国でも80名程度です。

当院では私が脳血管内治療を基本的にやっておりますが、フローダイバースtentもW・E・Bデバイスも使用可能です。これらのデバイスが出てきたことで、脳動脈瘤に関しては多くの症例がカテーテル治療可能となりました。頭を切らないことで体の負担が少なく、手の血管から治療することで安静時間も少なくなり、かつ新しいデバイスが登場により安全で確実な治療ができるようになりました。頭のことに関して少しでも気になることがあれば気軽にご相談ください。

今までに比べ低侵襲化が進んだと考えられます。



図1 手の血管からの治療

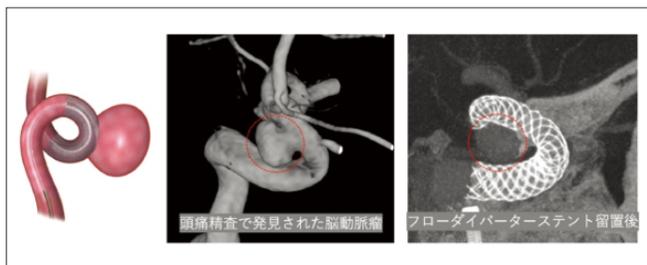


図2 フローダイバースtent治療

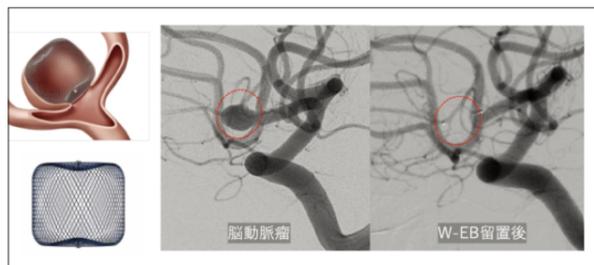


図3 W-E-B治療